

World's Window

さあ、窓を開けて世界をのぞいてみようよ

世界の窓



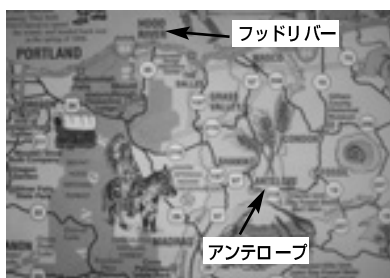
Vol.60

オレゴンでの出来事



世界の国々や地域を紹介するコーナー「ワールズ・ウィンドウ」！
案内役は、国際交流員のローラ・スタンリーさんとカレン・イトンさんです。

Hello! ローラです。今回は、わたしの故郷フッドリバーのあるオレゴン州、その中のアンテローブという小さな町で起こった大事件！全米だけでなく全世界をにぎわせた出来事を紹介したいと思います。とっても平和で穏やかな町がある日突然変わってしまったんですよ。



フッドリバー

アンテローブ

鶴田町の姉妹都市フッドリバー市から車で約2時間の所にある小さな町アンテローブは、おもしろいことが全く起こりそうもない場所です。現在アンテローブの人口は59人です。しかし、1980年代の初めにはアンテローブでは世界中のニュースの見出しを飾った劇的なことが起こりました。

それはすべて、インドからやって来たカリスマ性を持った自称予言者のバグワン・シュリ・ラジニーシから始まりました。ラジニーシは、ヨーガ、スーフィー派、チベットの仏教、および現代の心理学的な考えの側面を兼ね備えた「ダイナミックメディテーション」と呼ばれることを教えました。1970年代後半にプナ(インド)にあるラジニーシの人気のある修行所は、境界線を越え拡大していきました。そのためラジニーシは土地を探するためにアシスタントのシーラをアメリカへ行かせました。シーラはアンテローブの隣にある64,229エーカーのビッグマディー牧場を見つけて、購入しました。ラジニーシは1981年8月にビッグマディーに到着し、彼らはそこを「ラジニーシプラム」と命名しました。

数年の内にラジニーシと彼の信者たちはその牧場を、最盛期には7,000人が住み、年間15,000人の訪問者がやって来る活気にあふれた都市へ変えました。訪問者の多くが世界中や日本からさえラジニーシプラムの年に一度開催される「ワールドフェスティバル」のためにやって来ました。フェスティバルの間、人々は自分の「第3の目」を開くための手ほどきを受け、黙想や新時代の療法活動に参加しました。ラジニーシの信者はかなり衝撃的でした。彼らはみんな赤い服を着て、首にバグワンの写真が付いた大きなネックレス掛けています。

世界中からの訪問者と伝統的ではない信者たちは、牧場主やアンテローブの地元の人々とはまったく馴染みませんでした。

ラジニーシプラムには、空港、100万ドルの飛行機、自身の所有する郵便局、消防署、警察署、店およびレストランがありました。その上、その時代にアメリカで一番大きな太陽熱を利用した温室を持ち、ポートランドにはホテルとディスコを所有していました。

人々がいつも思い出すことは、ラジニーシが約100台ものロールスロイスを持っていたことです。彼は毎日そのうちの1つに乗って道路をゆっくり運転していました。道路の両側には赤い服をまとった信者達が並び、フードの上に花を投げたり

聖歌を歌ったりします。ロールスロイスはラジニーシの信者たちからの贈り物であると言われていました。信者たちの多くが裕福な専門職の人たちでした。そのためその宗教団体に参加する時に彼らの富をバグワンに寄付しました。



△ラジニーシに乗った車と信者たち

始めから、多くの地元の人々は郡の中に大きな宗教団体があることを不愉快に思っていました。土地や水の使用に関することやラジニーシプラムの私立学校に公的資金が使われたことなどについてのさまざまな論争がありました。何人かのラジニーシ信者たちがアンテローブ市議会に加わり、アンテローブ市の地元出身の議員の人数を上回りました。彼らはアンテローブ市の名前を法的にラジニーシに変え、メインストリートは「マブラナバグワンズトリート」に改名され、そして、地元のレストランは極端な菜食主義者のレストランになりました。

何人かのラジニーシ信者たちの幹部が、アンテローブ市があるワスコ郡の支配権を獲得しようと企んだ1984年に事態は険悪になりました。最初にラジニーシ信者たちは、地元の人たちに選挙で勝つために、ホームレスの人たちをバスに乗せ、選挙権を手に入れるために住民登録をさせようとした。この試みは問題になり、最終的には失敗しました。

彼らの次の計画はオレゴン州のダラス(ワスコ郡の中で最も大きい都市でフッドリバーから20分東にある市)のさまざまなレストランのサラダバーにサルモネラ菌をまき散らすことでした。1985年9月に約750人がウイルスによって病気になるました。それがアメリカでの最初の生物テロ攻撃であり、アメリカの全都市に対する細菌(化学)戦争と定められた唯一のケースでした。バグワンは結局インドに強制送還され、ほかの信者たちは殺人未遂を含むさまざまな犯罪行為で告発され、何人かは刑務所の中で暮らしました。

1985年にラジニーシ市は再びアンテローブ市になり、それ以来ゴーストタウンのような以前の状態に戻りました。ビッグマディー牧場は結局、「ヤングライフ」と呼ばれるキリスト教団体に寄贈されました。バグワン・シュリ・ラジニーシは1990年に死にましたが、狂信的な信者はいまだに現在「オショー・インターナショナル・メディテーション・リゾート」と呼ばれるインドのプナにある豪華な修行所に群がっています。そして、オレゴンでの暗い過去から遠ざかるようにラジニーシの大きな宗教団体はオーストラリアのバイロンベイという所にあります。



△侵入者に何もしていないと町に悪がはびこることを町民に唱えた石碑